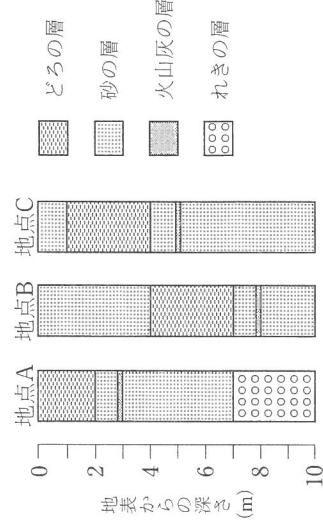


1 地層の重なり方と環境の変化 (新潟)

ある丘陵に位置する3地点A, B, Cで、ボーリングによって地下の地質調査を行った。図1は、地質調査を行ったときの、各地点A～Cの地層の重なり方を示した柱状図である。また、図2は、各地点A～Cの地図上の位置を示したものであり、地図中の曲線は等高線を表している。ただし、地質調査を行ったこの地域の各地層は、ある傾きをもって平行に積み重なっており、曲がったり、ずれたりせず、地層の逆転もないものとする。また、図1の柱状図に示した火山灰の層は、同じ時期の火山による噴火でたい積したものとす。

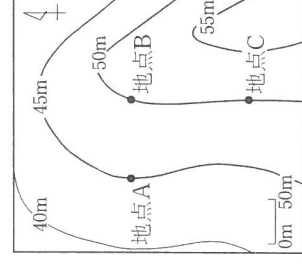
図1



(1) 地点Aで観察した地層の重なり方から、この地層がたい積した期間の環境の変化がわかる。その変化として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 海水面が上がったため、地点Aの位置は海岸から遠くなった。
 イ 海水面が上がったため、地点Aの位置は海岸に近くなった。
 ウ 海水面が下がったため、地点Aの位置は海岸から遠くなった。
 エ 海水面が下がったため、地点Aの位置は海岸に近くなった。

図2



(2) この地域の地層は、ある方角に向かって低くなるように傾いている。その方角として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 東 イ 西 ウ 南 エ 北

(1)
(2)

2 火山と火成岩 (三重)

図1は、三原山、桜島、雲仙普賢岳の特徴をまとめたものであり、図2は、桜島で見られる岩石のスケッチである。

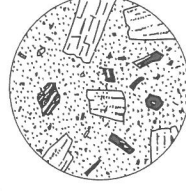
(1) 図1の[P], [Q], [X], [Y]に入ることからして、最も適当な組み合わせを次のア～エから1つ選び、その記号を書きなさい。

- ア [P] 大きい(強い) [Q] 小さい(弱い) [X] 白っぽい [Y] 黒っぽい
 イ [P] 大きい(強い) [Q] 小さい(弱い) [X] 黒っぽい [Y] 白っぽい
 ウ [P] 小さい(弱い) [Q] 大きい(強い) [X] 白っぽい [Y] 黒っぽい
 エ [P] 小さい(弱い) [Q] 大きい(強い) [X] 黒っぽい [Y] 白っぽい

図1

火山の形	三原山 傾斜がゆるやかな形	桜島 円すいの形	雲仙普賢岳 ドーム状の形
マグマのねばりけの程度	(P)	(Q)	(R)
よう岩や火山灰の色	(X)	(Y)	(Z)

図2



(2) 図2のように、桜島で見られる岩石は、マグマが急に冷えたために大きな結晶になれなかった部分と、まばらにふくまれる鉱物の部分からできている。これらの特徴から、桜島で見られる図2のようなつくりの岩石は何と考えられるか、最も適当なものを次のア～エから1つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 安山岩 イ 花こう岩 ウ せん緑岩 エ れき岩

(1)
(2)